

1 事業の概要

(1) 実施の目的

弘前商工会議所・岩木町商工会・相馬村商工会は、弘前ならではの地域ブランド＝場のブランド化に取り組んでおり、特に小規模事業者が新事業を企画開発支援事業については、弘前市の小規模事業者の参画意欲が強くなり、弘前地域経済活性化の起爆剤として大きな期待が寄せられている。

弘前地域は、これまでに無い「自律・継続的仕組みづくり」に挑戦する連帯の気性を備え、多様な若い集団は、新しい世界に挑戦しています。

【本プロジェクトの目的】

地域資源として他の地域資源産業との関係性を再構築し、製造職人の技を再発見して技を昇華することにより「特産打刃物」ブランド化を目指すことを目的とする。

その際、重要となるサテミストーリーの確立を目指し、地域ブランドを全国にアピールし、新たな販売戦略を構築し販促促進を図る。

【成功イメージ（目標）】

本事業の目標及び基本的な方向性  
津軽地域古来から、鍛々と培われてきた鍛冶技術そのものと、その中に内包された地域の基本戦略やビジョン等  
「再生と循環」をキーワードに、地域資源の域内連関の構築から生まれる独自性・新規性のある商品開発。

また、そのためには下記の検証を実施して事業に取り組む

- ・ 現在ある「特産打刃物」の域内産業連関構造の確認
- ・ 現在ある商品群の磨き上げ
- ・ 歴史的背景の整理確認、ストーリー化

(2) 委員会

弘前商工会議所内に「世界自然遺産『白神山地』のめぐみ開発プロジェクト事業委員会』を設置し、「弘前地域域のブランド」の価値を普及しブランド化を促すこと、先進的な取り組みを図ることを目的に、本事業提案書の目的に係る調査・研究・制作・開発等の事業を行い、その結果をとりまとめを行った。委員構成は次のとおり。

(委員・顧問・アドバイザー)

No	役職	氏名	所属
1	委員長	田中 央	相馬中野サライオンズ 代表取締役
2	副委員長	古澤 俊寿	初二井刃物製造所 代表取締役
3	副委員長	石川 善明	弘前大学教育学部 教授
4	委員	花松 憲光	弘前地域技術研究所 所長
5	"	保田 宗良	弘前大学人文学部 教授
6	"	香取 薫	青森公立大学経営経済学部 教授
7	"	樋引 利貞	(社)弘前市物産協会 会長
8	"	石澤 敏行	(社)弘前市商工会議所 理事長
9	"	野馬 徹弘	岩木町商工会 会長
10	"	熊谷 栄作	相馬村商工会 会長
11	"	尾坂 正人	弘前市商工連合会 部長
12	"	斎藤 明明	弘前市農林部 部長

(3) One to One Marketing Ordering System 構築研究

地元弘前の「弘前市立百石町展示館」「津軽食と産業まつり」において、多くの市民・消費者に会い、豊富な地域資源＝一つを掘り起こし、域内関係性を構築していく必要性を痛感した。多くの地域資源がありながらもうまく束ねられず、多様な点が存在している現状を再認識した。域内産業連関の構築が期待されている。売手と買手が共に良かったとする共有の喜びを構築するためには、多くの共感をシェアし掘り下げたものから全体を構成する関係性の構築を目指す必要がある。今回の事業では、津軽産と数々のコラボレーションが実現し、今後の新たな展開が見え始めてきた。

(4) 東京エッセイにおける可能性調査

期 間：平成29年2月5日（火）～8日（金）  
場 所：東京エッセイサイト  
調査先 展示会場  
目的 市場調査・商談  
参加者：(MCメンバー) 石川善明、武田孝三、三國徹、尾崎和彦、三國博英、佐々木哲也、齊藤潤一、今泉秀、小笠原富輝  
(弘前商工会議所) 情報企画室 村谷要、齊藤耕成  
商談件数：43件  
ブース来場者数：約400人



カーデニング、オンラインカルテン等大都市圏において、刃物の本物志向が顕著できている。多くのバイヤーから、メンテナンスも含めた商品化に対して高い評価を得ることができた。その場で、商談が成立するケースが数件あった。

特化したものが受け入れられる時代に入ってきた。この業界でも本質的なテーマ、オンライン、多様性へと一部移行しつつある。多様なものからの選択の楽しみが重要視され始めているようである。地域環境、「循環と再生」については外せないテーマとなってきている。

4 特許出願

発明者 田中 央  
特許出願人 弘前商工会議所  
発明の名称 塗り製品及びその製造方法  
技術分野 本発明は、透過部を有する塗製品及びその製造方法に関する。

